令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 ： グループホーム いちょうの木

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0370400178		
法人名	社会福祉法人 憲幸会		
事業所名	グループホーム いちょうの木		
所在地	〒023-0003 岩手県奥州市水沢佐倉河字十日市85番地		
自己評価作成日	令和4年1月25日	評価結果市町村受理日	令和4年6月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年4月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

いちょうの木はでは「その人の望む生活、その人らしさを大切にした関わりを実践します」を事業所理念のもと、
安心して落ち着いて過ごせる環境、家庭に近い自然体での生活を提供しています。
地域に出向き繋がりを大切にしておりますが、コロナウィルス感染防止のため買い物等の外出は控え、施設内で季節毎の行事を
行いながら利用者様に楽しんで頂けるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「その人の望む生活、その人らしさを大切にした関わりを実践します。」とする理念をもとに、利用者それぞれの持つ“力”を大切に支援し、利用者は朝起きた時から就寝するまで、カーテンを開け、居室のモップ掛け、洗濯干し、乾き具合を見て取り込みたたむ等の作業を行い、食事時には野菜の皮むき、テーブル拭き、茶碗拭きなどの役割を担い、家庭的な雰囲気のなか自然体で日々過ごしている。職員は室内での活動にも力を入れ、ラジオ体操、風船バレー（うちわや棒を使う）、数字合わせなど、いろいろなゲームを多く取り入れ、楽しんでもらえるよう工夫をしている。コロナ感染予防対策をしながら、花見や紅葉、胆沢ダム、花きセンター見学、利用者の家の近くに行くなど、利用者の思いに寄り添いながら、楽しんで頂けるよう日々支援している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム いちょうの木

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は常に見やすい所に掲示し、意識し取り組めるよう心がけている。	理念は、以前リーダー研修を受講した職員の報告を足がかりとして、職員の話し合いのもとで作成した。管理者は、部署会議で職員への浸透具合を確認すると共に、常に見えやすい場所に掲示し、また業務日誌の表面にも添付するなどして、職員間で共有し意識しながら支援できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域のお祭りの参加などで交流する機会があったが、現在はコロナウィルス感染予防のため、外部との交流は控えている。	法人全体が町内会に加入し、市の広報も届いている。コロナ禍前は、事業所の行事に近隣の方々の参加も多く、交流も沢山出来ていたが、現在は散歩時に挨拶する程度となっている。事業所は「子ども110」に指定され、数日前には、佐倉河小学校から感謝状をいただいたばかりである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族介護者教室、認知症カフェ、佐倉河地区徘徊模擬訓練を包括・地域の方と協力し行っていたが、現在はコロナ禍で行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、コロナウィルス感染予防のため、書面にて利用者様の入退居状況、活動報告を行い、電話や返信用封筒を同封し意見を頂いている。	運営推進会議のメンバーは地区会長や元民生委員、市担当職員、地区駐在所、近隣の方で構成されている。コロナ禍のため、現在は書面開催とし利用者の状況や活動、事故・苦情に関する報告、職員の研修等について「いちょうの木」だよりと文書でお知らせし、委員からは「利用者の様子が写真で良く分かる。」との感想や職員への労いの言葉をいただいている。職員には会議録で回覧している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には民生委員、市の担当職員の参加により実績状況を伝え、ご意見を頂いている。	運営推進会議メンバーに市の担当課職員も参加しているが、書面開催となり会議の席で聞く事は出来ないものの、連絡や業務上の確認事項は、電話や管理者が市に出向いて相談している。介護相談員は、年2回程度来所し、利用者情報も提供してくれる。生活保護担当者も事務手続の照会に気軽に応じてくれている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム いちょうの木

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人、部署内研修にて身体拘束の研修会を行い、拘束しないケアに取り組んでいる。	系列事業所の管理者による身体拘束廃止委員会を3ヵ月毎に開催し、指針も作成している。月1回の部署会議でスピーチロックについて話し合ったり、権利擁護の研修に参加し、職員お互い気を付けながら拘束しないケアに努めている。家族の了承のもと、1名が夜間のみセンサーマットを使用している。玄関にはセンサーを取り付け、夜間だけの施錠としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内研修、部署会議等で話し合い、学ぶ機会を設け実践に繋げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度を利用している方がおり、研修会等に参加し学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書や重要事項で説明し理解を頂いている。分かりやすい説明を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置、運営推進会議やご家族様来所時に意見・要望を聞く機会を設けている。 介護相談員も来苑している。	利用者の要望は、日々の生活の中で聴き取るよう努めたり、介護相談員が来所し利用者の気持ちを聴く機会を持つなどしている。家族からは、受診介助で来所された際や介護計画見直し内容の照会時に、意見や要望を確認する様に心掛けている。コロナ禍での面会制限中、3、4名の方がLINEでのオンライン面会を利用して面会している。	

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム いちょうの木

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや部署会議、全体会議等で意見や提案の機会を設け実践している。	職員は、利用者や業務についての日常的な相談を気軽に管理者に相談している。経費のかかる修繕や備品購入等は、管理者を通じ本部長に要望を出し、要望が通らない場合でも、管理者は職員に結果を報告している。日常的には、レクリエーションの工夫や行事の提案を取り入れ、利用者の支援にあたっている。最近では、Wi-Fi環境の整備やトイレ内鍵の設置が具体化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格習得に関しては必要な支援を行っている。就業規則、給与規定の見直しを行い、より働きやすい環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格習得、法人内外の研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定例会に参加し交流を図っていたが、現在はコロナ禍で行っていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み後、ご本人様と面談し心身の状態把握に努め、不安等にも耳を傾け話しやすい環境づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時、来苑された際には不安や要望等をお聞きし、安心し納得して頂けるよう説明している。		

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム いちょうの木

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様や ご家族様及び担当ケアマネから情報を収集し、ニーズを把握しケアプランに活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症対応型共同生活介護について職員は共通理解しており、共に暮らすことから生じる多くの学びを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の負担や不安・ストレスが軽減され、ご本人様を受容することができるよう認知症の説明を行なったり、病院受診や馴染みの場所へ行けるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容室や病院等、ご家族様の協力のもと馴染みの関係が続いている方もいる。	8名の利用者が定期受診時に同行する家族と面会ができる。コロナ禍前は毎日交代で食材の買物に出かけていたが、配達に切替えたお米屋さんが、月2、3回気になる利用者に声をかけてくれる。隔月で利用している美容室の先生も貴重な馴染みの人となっている。自宅周辺へのドライブ時、利用者の反応は少なくなっているが支援は継続している。密を避けて出かける隣町の花きセンターは、花が好きな利用者から喜ばれ、新たな場ともなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを行うことにより、利用者様同士がコミュニケーションを取りやすくなり、その人となりを知ることで協力しあう関係が出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族様から連絡頂いた際には、丁寧な対応を心がけている。		

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム いちょうの木

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始に際しご本人様と面談し、お話をし、さらにご家族様に入居時調査票を記入して頂いています。ケアプランを作成する際にご本人様にアセスメントし想いや意向の把握に努めている。	入居の際に本人や家族と面会し、暮らし方の希望を把握しケアプランにも活かしている。入居者全員との意思疎通は可能だが、会話だけでなく表情やしぐさ、声のトーン等で本当の思いを汲みとるように心掛けている。日常の作業や趣味の活動、外出先や食べたい物等、活動や作業に入る前の確認は欠かさず行っている。「裁縫がしたい」利用者には、ボタン付けや雑巾縫い等、集中力が保てるうちに終わる作業を提案している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時調査票の記入やご本人様・ご家族様に生活歴について詳しく聞き取りをし、利用者様の言動の理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、利用者様の様子や発する言葉等、気づきを大切にし、ケアチェック表や支援記録、業務日誌にて情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティングや部署会議にて、現在の状況を報告し合い、意見を出し合い検討している。	入居時には1ヵ月の暫定プランを作成し、日常の介護計画に基づく支援結果は、毎日オリジナルの「ケアチェック表」に記載している。介護計画の見直しは概ね3ヵ月毎とし、事前に家族や利用者からの要望も確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録やケアチェック表を活用し、職員間で情報共有しながら介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの利用者様の状況把握に努め、柔軟なサービス提供が出来るよう取り組んでいる。		

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム いちょうの木

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は地域の行事に出掛けたり、敬老会には託児所の子どもたちがお祝いに来てくれたりと交流を図っていたが、現在はコロナ禍で交流の機会がない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に際しかかりつけ医を変えてもらったことはない。緊急時にはご家族様と連絡を取り、受診している。 また、連携医療機関であるまごころ病院の訪問診療を利用されている方もいる。	入居後も、家族対応で入居前からのかかりつけ医での治療を継続していただいている。遠方に住んでいる家族が希望された利用者は、月1回まごころ病院の訪問診療を利用している。協力歯科でのむし歯治療後、8名の利用者が3～6ヵ月毎の定期健診を受けている。治療と併せ、歯科衛生士からの刷掃指導も受け、歯間ブラシを使いながら口腔ケアにも努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師による健康チェックにて一人ひとりの現状を伝えている。体調の変化について常に相談し、指示・アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には、生活の様子を情報提供している。 また、電話や病院に足を運び、経過の観察に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	以前は、ご家族様からの要望もあり実施に向けて取り組む予定で動いていたが、実際はターミナルの実施には至っていない。	これまで事業所での看取り事例はなく、現在も入居時に、重度化した場合の事業所対応について家族に説明している。協力医療機関のまごころ病院では看取り対応をしており、利用者が重度化した場合には対応も可能との考えもあるが、現状の体制下では、特別養護老人ホーム等入所の方向で支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し対応しているが、定期的な訓練は出来ていない。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム いちょうの木

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人で避難訓練や夜間の火災想定訓練を設け、消防署の指導の元に行っている。	年2回消防署員の立ち会いのもと、火災を想定した訓練を実施している。市のハザードマップで水害危険区域にはなっていない。非常時には職員間でグループラインを活用することとしている。前回の外部評価時からの懸案事項は未整備である。複数の新規職員もおり、管理者は定期的なミニ訓練の必要性を認識している。	避難経路として非常口から屋外に避難する際、段差や砂利道があり、車椅子利用者もいる事から、安全に避難できるよう必要な措置を応急的でも講じることを期待する。併せて、全職員が想定災害対応を経験できるよう、定期的にミニ訓練を行うことを期待する。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりどんな誇り・プライバシーを気にされているかを把握し、情報を職員皆で共有している。出勤時の挨拶や感謝の気持ちで「ありがとう」「助かります」と一人ひとりに声がけしている。	利用者一人一人に対しどのような言葉や行動が人格を傷つけているかを把握し、職員間で共有して支援に努めている。出勤した時には挨拶をし、感謝やお礼の気持ちを言葉にする事で、利用者から喜ばれている。入室の際は声掛けやノックを行い、トイレ誘導時の声掛けや失禁時にも、他の利用者に分からないよう小さい声で話す等、配慮し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定して頂くようにしているが、出来ない方には、会話の中から想いを感じとれるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活を決めずに毎朝一人ひとりに声がけ、その日の希望がないか聞き、希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝本人に整髪や髭剃りをして頂いています。着替えの際は、どの洋服にするのか選んで頂いている。		

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム いちょうの木

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は頻回に外食に出掛けていたが、現在はコロナ禍もあり好物を聞きながらテイクアウト利用し楽しまれている。利用者様にお茶入れ、盛り付け等を手伝って頂いている。食器拭きや米とぎ、テーブル拭き等、片づけは利用者様が進んで行っている。	利用者も職員と一緒に食材購入に出掛けていたが、今は職員のみが2日に1回購入し、食事当番者がその日の食材を見て献立を立て調理をしている。食事前後の準備や片付けは、1人が動き出すと利用者全員が夫々の役割を行い、昼食は職員も同席して食べている。誕生会や行事食には、利用者の好物を聞き、テイクアウトをし喜ばれている。花見に行き、だんごを食べたり、戸外で行う夏祭りでは、流しソーメンやスイカ割りに楽しそうに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定にて増減の確認、毎食の食事量を記録し状態把握に努めています。栄養バランスを考えながら、塩分・糖質も出来るだけ少な目に調整するよう努力し、食事を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に準備・声がけを行っている。 必要に応じて介助・仕上げ磨きを行っている。また、 訪問歯科にて定期的な口腔内検査と、口腔ケア指導も行って頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほとんどの方が排泄行為は自立されているが、定時のトイレ誘導、見守り、排泄パターンを把握した定期的な声がけを行っている。	入居後の支援で、リハビリパンツから布パンツに改善している利用者もいる。排泄前後の声がけや仕上げ介助だけでなく、使用パッドの誤流防止の見守りにも神経を使っている。排泄チェック表だけでなく、しぐさや排尿間隔等を理解し、なるべく失敗しない様な支援をしている。夜間のみポータブルトイレを利用している利用者が1名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し必要に応じ緩下剤を調整している方もいますが、毎朝ヨーグルト、昼にヤクルトの提供、水分量・運動にて予防に取り組んでいる。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム いちょうの木

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しみにされている利用者様が多く、Ｉ日の楽しみになっている方もいます。 入浴を嫌がる方へもタイミングや気の合う職員が対応するようにしている。ゆず湯や入浴剤にて楽しめるよう工夫している。	風呂は毎日お湯張りし、殆どの利用者は1日おきに午前の入浴となっている。異性介助を嫌がる方はいないが、衣服の着脱などで嫌がる方には、タイミングを見計らって進めたり、気の合う職員が対応するようにしている。入浴時は好きな歌手の曲や童謡を掛けたり、季節の菖蒲湯やゆず湯、入浴剤を入れる等して、入浴が楽しみの時間となるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、ホールや居室にて休息を取りながら、日中の運動や活動等で夜間は皆さん良く眠れています。一人ひとりの生活リズムに合わせ、安心して気持ち良く眠れるよう空調設定にも気を配り支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬は写真付きのケースにてセッティングしている。服薬する際も複数の職員でダブルチェックし、ご本人様にも服薬時確認して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれに出来ることの役割を持って頂き支援している。皆さんでのレクや身体を動かすことを好まれ、天気の良い日には散歩に出掛けたり、感染対策を行いながらドライブにも出掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルス感染予防のため、買い物や外食等の外出を控えているが、さくらの湯までの散歩やドライブには出掛けられるよう支援している。 また、ご家族様に協力を頂き病院受診や美容室、外食と出掛けられている方もいる。	雨天や冬季以外は、午前中のお茶の時間前に散歩に出かけるのが日課となっている。利用者毎に出かける目標が決まっているが、ひと冬越しての今春は、昨年の秋口に比べ歩行力が低下しており、支援を強化し歩行力を上げていきたいとしている。また、ベランダへの出入りも自由に出来、花の水遣りや洗濯物の取り込み等日常的に戸外に出ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている方は施設で管理し、金銭出納帳にてご家族様に確認して頂いている。 買い物に出掛けた際、品物の値段等の会話にて金銭の認識が薄れないようにしている。		

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム いちょうの木

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話や当事業所からの連絡の際は、本人に取り次ぎお話して頂いている。 手紙や年賀状、誕生日プレゼントが届く方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールが落ち着くのか、居室で休まれずソファーで過ごされる方が多い。ホール壁面には季節毎の装飾を行い季節感が持てるようにしている。	共用のホールには食卓を兼ねたテーブルと椅子、ソファー、テレビが置かれ、壁面には、職員と利用者が一緒に作ったちぎり絵（お正月、ひなまつり、桜）が飾られ、季節感を感じ取れるよう工夫している。風船バレーやかるた等をし、利用者一人々が、起床から就寝までを自分の好きな場所（固定しているが）で、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールではそれぞれ自由に過ごされており、テレビ前のソファーでは気の合った方でお喋りする等、楽しまれている。一人になりたい時には居室で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には馴染みの物を持って来て頂くようにしている。テレビやタンス等ご家族様に持って来て頂き、写真やレクで作った物を飾ったりしながら居心地良く過ごせる空間づくりに努めている。	居室には洗面台、ベッド、エアコンが備え付けられている。殆どの利用者が日中ホールで過ごしており、出入りしている利用者は1、2名程度である。5名の利用者がテレビを持込んでいるが、現在視聴しているのは1名とのことである。古本屋の店主だった利用者は、歴史や小説の本を持ち込み、また完成した塗り絵を自分なりのレイアウトで飾っている利用者もいる。居室床のモップがけは、利用者が日課で行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物に収納スペースがなく、通路にタンスや物があるので、介助するには手狭な環境となっているのが現状ですが、お一人おひとりに合わせて安全で安心できる環境を作り、自立した生活が送れるよう支援している。		